

適正施設ガイドライン

【シナイモツゴ *Pseudorasbora pumila*】

2020年9月

公益社団法人日本動物園水族館協会

1 飼育環境

1-1 水温

1) 未成魚・成魚・繁殖

外気温に準じる水温で飼育可能（冬 2℃～夏 30℃）。自然な水温変化が繁殖（成熟）には適している。屋外飼育の場合、夏季の直射日光による過度な水温上昇を防ぐため、遮蔽物が必要な場合がある。

2) 仔稚魚

室内で室温飼育（18℃～28℃）。

1-2 振動・光

水槽の前を頻りに人が行きかう場所は、魚が落ち着かないため避けた方が良い。

日照、気温、水温などの概日・概年リズムが阻害されないような配慮が必要。

1-3 照明（日照、人工照明、照明時間）

自然光、人工照明のどちらでも良いが、自然日長が繁殖（成熟）には適しているため、屋内飼育の場合、水槽を窓際に設置するか、人工照明の点灯時間を自然日長に合わせると良い。

1-4 水槽サイズ、面積、容積

1) 繁殖

FRP 水槽（300×145×70 cm、容量 3 m³）で 20 尾程度が理想であるが、樹脂性の水槽（120×75×55 cm、容量 500ℓ）で 10 尾程度でも良い。

2) 卵・仔稚魚

60 cm水槽（60×30×35 cm、容量 60ℓ）～90 cm水槽（90×60×60、容量 300ℓ）。

3) 未成魚・成魚

60 cm水槽、90 cm水槽、FRP 水槽、ビオトープ、管理池。

1-5 構造、設備、水槽の数

1) 未成魚・成魚・繁殖

水槽の底砂は必要ないが、川砂、珪砂などを敷いても良い。隠れ家や産卵基質として、瓦、植木鉢、コンクリートブロック、直径 10cm 程度の土管や塩化ビニルパイプ、沈木などを入れる。水草などを植えても良い。

2) 卵・仔稚魚

ベアタンクを用いる。（ベアタンク：水槽に底砂を敷かない飼育方法）

繁殖水槽、卵・仔稚魚育成水槽、未成魚・成魚飼育水槽が必要である。遺伝的多様性を保つには繁殖年や家系ごとに多くの水槽が必要である。

1-6 飼育水（水質）

塩素を中和した水道水や井戸水、河川水を使用し、常時注水や換水、濾過などで水質を保つ。



写真1 繁殖水槽



写真2 卵・仔稚魚育成水槽



写真3 未成魚・成魚飼育水槽